

# 芝の校庭で初の運動会 神石高原・三和小 「ふんわり感触気持ちいい」



芝生の上を力いっぱい駆ける児童ら（神石高原町立三和小学校で）

神石高原町小島の町立三和小学校（東一史校長、85人）で、児童らが約4000平方メートルの校庭に植えた芝が丈夫に育ち、その上で6日、初めての運動会が開かれた。昨年の少雨で一度は枯れかけたが、児童らが心を込めて手入れを続けるなどし、校庭一面に＜緑のじゅうたん＞が広がった。児童らは柔らかな芝生の感触を楽しみながら、元気よくグラウンドを駆け回った。

芝は、昨年、町教委が同町階見の三和野球場に芝を植えた際に余ったもので、東校長が同小に植えたいと希望した。同6月、児童らは、5センチ四方の苗を約3時間かけて30～50センチ間隔で校庭に植えたが、7月頃の少雨で大半が弱って枯れたようになってしまった。

しかし、芝の75％は根が枯れずに残っていたため、今春、再び芽を出した。5月には町教委の協力で芝の追加提供を受け、児童らは校庭の地肌が見えている部分に再び植えた。6月の渇水期には「また枯れるのでは」と心配されたが、児童らは放課後に草取りをしたり、夏休みにはプールの後で保護者らと水まきをしたりして熱心に見守ってきた。

その後、まとまった雨も降り、芝は順調に生育。児童らは「寝ころべるくらい生えてきたよ」などと成長を喜びながら、芝のお披露目となる9月6日の運動会を心待ちにしてきた。

運動会当日、校庭には卒業生や地域住民も含め約300人が集まり、綱引きやリレーなどの競技に「頑張れ」などと声援が飛び交った。6年の原彩人君（12）は「ふんわりした芝生の上での運動会は気持ち良かった。皆で頑張って育てたかいがあった。後輩たちも大切にしてほしい」と声を弾ませていた。

東校長は「転んでけがをせず、照り返しが少ないなど、芝生の長所は数多くあるが、地域の憩いの場になるのが一番うれしい。皆で育てた芝の上で気持ちのいい運動会が出来て良かった」と話していた。

（2009年9月8日 読売新聞）

## 関連記事・情報